

令和6年度岩手県立農業大学校外部評価懇談会報告書

- 1 日時 令和6年7月10日(水) 13:15~14:45
- 2 場所 岩手県立農業大学校 農業研修館研修ホール
- 3 出席者

| | | |
|----------|----------------------------------|--------|
| 構成員 (座長) | 岩手県立大学総合政策学部教授 | 吉野 英岐氏 |
| 構成員 | 岩手県高等学校教育研究会農業部会会長 | 菊池 郁聡氏 |
| 構成員 | J Aいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長 | 山崎 勉氏 |
| 構成員 | 岩手県認定農業者組織連絡協議会会長 | 川村 厚氏 |
| 構成員 | 岩手県農業農村指導士協会会長 | 青沼 純一氏 |
| 構成員 | 岩手県農村青年クラブ連絡協議会監事 | 高橋 真樹氏 |
| 構成員 | 岩手県立農業大学校父母の会会長 | 河本 英憲氏 |

4 議事

(1) 令和5年度自己評価結果について

令和5年2月に実施した学生、父母等、職員への学校運営に関するアンケート調査結果及び次の各項目の取組内容の自己評価結果に係る意見・要望をいただき、次のとおり項目の全てにおいて、自己評価結果と同じ評価を得た。

| | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 新規就農者の確保育成 | <u>A</u> (A) | () は自己評価を示す。 |
| 2 多様な担い手の育成 | <u>A</u> (A) | |
| 3 農大の機能強化推進 | <u>B</u> (B) | |

主な意見等

ア 新規就農者の確保育成

- ・少子化の中、学生確保に向け努力していると思う。一方で気になるのは教職員が学校の設備や機械関係を低く評価していること。学生にそのように感じられる前に改善してもらいたい。
- ・施設や機械の増強については、学生が自ら困っている事柄を SNS で発信してみるのはいかがでしょうか。クラウドファンディングで募集してみるのも一つの方法。
- ・学生募集については、普通高校の進学を考えている生徒に対し、4年制大学への編入もできることをメリットとして提示することで、入学する学生もいるのではないかと。

イ 多様な担い手の育成

- ・都心の学生の修学旅行先として、食育や農業体験ができる場所が少ないので、それを引き受けるとなれば進路候補となっていくのではないかと。
- ・冬場など農業以外の収入がないと、後継ぎがなかなか落ち着いてくれない。

ウ 農大の機能強化促進について

- ・インスタグラムでの広報活動が活発で、今後も伸ばして行ってほしい。

(2) 岩手農大機能強化に向けた基本構想の見直しについて

主な意見等

ア 本科の現状と課題

- ・学生数定員については、県外からも積極的に学生募集をする意見も出ており、今減らすよりも少し様子を見てもよいのではないかと。

- ・定員 70 人になってから大分長い。高校では統合して大きい学校にしていく流れがあるが、それでも募集定員を増やさない状況である。少子化を考えれば定員を減らしていくことは必要ではないか。
- ・今の農家は、複数品目の経営が多い。また、非農家の学生も多いことから、学科編成は複合経営を視野にいられたものであった方がよい。
- ・雇用就農に進む学生も多く、経営科を跨いで選択できる科目や、今いる経営科とは異なる経営科の授業を受けられるようなカリキュラムがあってもよい。
- ・寮生活では社会性や自立性が身に付くので、親も入学させたいという声はある。

イ 研修科の現状と課題

- ・海外研修生向けの研修、例えば刈払機の研修などがあればよい。また、海外研修生を雇う側への研修があればよい。
- ・農大の負担も大きいので、民間の研修施設などと棲み分けをしていく方がいいのではないか。